



Nodai Toka

給食だより

東京農業大学稲花小学校

発行日 2022年6月17日

発行人 校長 夏秋啓子

栄養教諭 佐藤靖子

梅雨となり、子どもたちは外で遊べない日も増えてきました。カいっぱい遊びたいのではと思います。しかし、給食の時間は、なるべく騒がないようにして着席しており、準備は静かにいき、黙食を実行しています。うれしいことに、給食が終わるといつも「おいしかったです。」と笑顔いっぱい、話してくれます。

1年生は、もう上手に給食の準備ができるようになりました。エプロンの紐を結んだり、三角巾を結わえたりするときは、2人でペアになって助け合っています。2年生には、栄養教諭が配膳を手伝おうとすると「これは、給食当番の仕事です。」と断られてしまいます。もう1年生ではありません。3年生は、自分たちで給食クイズを作っていて、給食を通して自分たちで自主的な学びとしています。4年生は、今でも1年生のお手伝いをしているのですが、4年生が代わりにやってしまうのではなく、1年生が自分でできるように声をかけて1年生ができるようにしています。それぞれの学年で、それぞれの成長が見られます。

とても頼もしい、そしてやさしい、農大稲花小の子どもたちです。

1年生から4年生 みんなで給食づくりを手伝いました。

5月30日(月)から6月16日(木)にかけて、1年生から4年生がそれぞれ給食を作る手伝いをしました。自分たちが毎日いただく給食1食ができるまでには、畑などで生産され、輸送され、店で売られて、買われて、調理され、配膳されてという長いフードサプライチェーンを経ていることを少しずつ理解してもらおうと考えています。

1年生はグリーンピースの皮むき、2年生はトウモロコシの皮むき、3年生はエダマメもぎ、4年生はそら豆の皮むきをしました。給食という仕事を手伝える意識を持たせるために、簡単な作業であっても、服装は整えること、手はきれいに洗うことなどを徹底しました。

どの学年の子どもたちも、笑顔でいきいきと取り組んでくれました。

6班ごとに分かれて作業をしたのですが、どの学年もなぜか最後には、どちらが早く作業を終わらせるかという競争になっていました。また、作業をしながら「豆が入っているところが膨らんでいる。」「意外と皮がかたいです。」「(調理の人は)この作業を全部毎日やっているんですか。」など発言し、新しい発見があったようです。

また、どの作業も意図的に最初に正しい皮の向き方を示さず、子どもたちが考えて作業するようにしました。すると、大人と違って子どもの小さな手には豆のさやむきなどは、さやをねじるほうが作業しやすいという発見もありましたし、子ども同士で作業の仕方を教えあったり、ほかの人の様子を見て学んだり自分たちで考えて、作業を進めていました。

最後は、給食室へ行き、調理の方に調理して下さるようお願いをしました。そして、給食時には、調理の様子を電子黒板でみることもできました。こうしてみんなで作るおいしい給食、笑顔いっぱいの給食になりました。



1年生 グリーンピースむき
「思ったよりかたいです。」



1年生 よろしくおねがいします。



2年生 とうもろこし皮むき
「こんなに長い。」



2年生 よろしくおねがいします。



3年生 えだまめもぎ
服装の準備が完璧にできました。



3年生 よろしくおねがいします。



4年生 そらまめむき
「最後の1個はみんなでむこう」



4年生 よろしくおねがいします。